

上野幌・青葉地域 **北側部会 ニュース**

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。平成28年9月からは議論を深めるために、北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討することになりました。このニュースについても部会ごとに発行します。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

**第3回部会について**

3月14日（火曜日）午後1時から、青葉小学校で第3回部会を開催し、統合後に活用する校舎等について検討を行いました。

**報告事項**個別に寄せられた  
意見

1月31日に開催した第2回部会以降、FAXで1件、手紙で1件、メールで2件の計4件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 青葉小学校と上野幌小学校はこれから手を携えて協力していかなければならないので、両校にわだかまりの残らないような検討をし、結論を出すべきである。

（平成29年2月 FAX）

- 保護者にとって通学距離は切実な問題であるため、最優先で検討し重点的に議論を重ねるべきである。
- 小中一貫教育は現段階で否定するべきでなく、上野幌小学校が青葉中学校に近いというのはメリットである。

（平成29年2月 手紙）

- 小中一貫校を設置することになれば、跡活用を検討しなければいけない校舎が増えるという懸念が生じる。
- 青葉中学校と上野幌小学校であれば、児童と生徒の通学の方向が同じになるため、地域で見守ってくれる人たちの目も届き安心できるのではないか。

（平成29年3月 メール）

- 青葉中学校に隣接する利便性や相互性、また児童会館が学校内にある安全面のことを考えても、上野幌小学校を活用することが望ましいのではないか。

（平成29年3月 メール）

## 検討事項

小中一貫校の論点整理を行い、引き続き活用する校舎について、協議を行いました。

### 小中一貫校についての論点整理

第2回部会で確認事項となっていた、小中一貫校を目指すかどうかについて、事務局からの資料をもとに、検討を行いました。

#### ■小中一貫校に関する施設形態について（施設一体型、施設分離型）

施設一体型	施設分離型
<ul style="list-style-type: none"><li>○小学校と中学校が同じ建物の中にある<ul style="list-style-type: none"><li>・教職員の研修や情報共有などがしやすい</li><li>・児童生徒の移動時間が少なくすむため、相互交流がしやすい</li></ul></li><li>○既存の校舎に収まらない場合、校舎の新築や増築が必要になるため、小中一貫校導入の方向性が決まっても移行までに時間がかかる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○小学校と中学校の建物が別々にある<ul style="list-style-type: none"><li>・校舎の距離が離れている場合、教職員の打合せや研修会等の時間が取りづらい</li><li>・校舎の距離が離れている場合、児童生徒の移動時間や移動手段の確保が難しい</li></ul></li><li>○既存の校舎を活用できるので、小中一貫校導入の方向性が示されれば、すぐに移行できる可能性がある</li></ul>

#### ■札幌市で小中一貫校が導入されない場合について

- 仮に小中一貫校が導入されない場合でも、小中一貫教育や小中連携教育の強化について要望していくかどうか

#### ■小中一貫教育について

小学校と中学校間の連携により9年間を見越した連続性のある教育活動の充実を図る。

～「小中一貫教育等についての実態調査の結果（平成27年2月：文部科学省）」から～

##### 小中一貫教育導入の狙い

- 学習指導上の成果をあげる
- 生徒指導上の成果をあげる
- 教職員の意識改革
- 教員の指導力の向上
- 異学年児童生徒の交流

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"><li>○中学校進学時に不安を覚える児童の減少</li><li>○「中1ギャップ」の緩和</li><li>○小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識の高まり</li><li>○小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識の高まり</li><li>○小・中学校共通で実践する取組の増加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○小・中学校の教職員間での打合せ時間の確保</li><li>○小・中学校合同の研修時間の確保</li><li>○児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保</li><li>○教職員の負担感・多忙感の解消</li></ul>

- 小中一貫校について
  - 学習指導要領が改訂される 32 年度に小中一貫校という形で開校するのは難しい状況だと思うが、この地域として将来的に小中一貫校を目指すという方向性は素晴らしいので、要望として意見書に盛り込むべきだと思う。
  - 札幌市として小中一貫教育に関する議論は始まったばかりだが、小学校と中学校の連携については、不登校児童の増加などに歯止めをかけるためにも強化していくべきだと思う。
  - 小中一貫教育は一定の成果が出ているという文部科学省の調査もある。施設形態は施設一体型の方が施設分離型よりもメリットが大きいと感じる。
  - 小中一貫校が導入されることが前提だが、この地域で小中一貫教育を定着させていくためには施設分離型ではなく、施設一体型が望ましいのではないか。
- 結論を出す時期について
  - 教育環境を第一に考えるということであれば、検討が長期化していること自体が子どもの利益を奪っていることになると思う。
  - 2年半という検討期間は長く感じるが、そのほとんどは4校の統合の組合せに関するものであり、活用する校舎の検討はまだそれほどされていないという考え方もあるのではないか。
  - 結論を 29 年度に持ち越すと、一部委員の入れ替わりがあるため、検討が後戻りする可能性が高く、ますます決まらない。決め手がないのはわかっているが、今日の部会の中で結論を出すべきである。
  - 特に未就学や低学年の子どもとその保護者は、部会での方向性が出ないことに関して不安が募っており、結論を先延ばしにすることはデメリットが大きいと思う。
- 統合後に活用する校舎について（継続）
  - 活用する校舎に関しては議論し尽くしており、決め手がない状況で時間だけが過ぎて行くのであれば、教育委員会に一任するという方向性でもいいのではないか。
  - 青葉小学校のサタデースクールに関しては、地域の協力が必要不可欠であるが、新しい学校の場所がどちらになっても、今までと同じように協力してくれると信頼している。
  - 本当に決め手がないという認識の中で唯一言えることは、小学校と中学校の距離感である。小中連携を強化するという点で言えば、時間的な余裕ができることは、児童にとっても教職員にとってもメリットになる。
  - 施設一体型の小中一貫校が導入されることが前提だが、施設一体型の小中一貫校を考えるのであれば、導入までの間、青葉小学校を一時活用した方が、敷地が隣接している上野幌小学校と青葉中学校を有効活用できるのではないか。

- 仮に青葉小学校の校舎を活用し、いざ施設一体型の方向性が見えた時に上野幌小学校は売却されている可能性もある。上野幌小学校を活用し、青葉中学校を施設一体型の小中一貫校に建て替える方が可能性は高いのではないか。
- 29年度になって、活用する校舎を決定するための新たな比較材料が出てくる可能性は低いと思う。新しい委員が入りさらに検討が長期化するのであれば、小学校が中学校と隣接しているということで、時間的な余裕が生まれやすく小中連携の強化が進む可能性のある上野幌小学校を活用する方向性で進めていくべきではないか。
- 小中学校が隣接しているという理由で上野幌小学校を活用する、という方向性に納得できない方もいるかもしれないが、これ以上の検討の長期化を避けることを最優先に考慮したということで進めていくしかないのではないか。
- 両校の地域や保護者の方がそれぞれの学校に愛着があるのは重々承知しているが、両校の子どもたちのため、ほんの少しの差であるが上野幌小学校を活用して、今後の小中連携をより一層強化するよう教育委員会に意見書を提出する方向性で進めるべきではないか。
- 学校が「残る」ということではなく、「新しい学校」ができるという共通認識を持ってもらえるよう、事務局には今後しっかりとした周知をお願いしたい。

## 決定事項

第3回の部会では、以下のことを決定しました。

- 教育委員会に提出する意見書に「小中一貫校の設置を目指す」「形態は施設一体型を希望する」旨の要望を入れる
- 小中連携を強化することを考慮すれば、小学校が中学校と隣接している方がより一層連携しやすいというメリットがあるため、上野幌小学校を統合後の校舎として活用し「新しい学校づくり」を進める

## 第4回の部会について

第4回部会は、6月頃の開催を予定しており、教育委員会に提出する意見書案について協議を行います。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

### 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ 検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>